



平成25年2月26日
内閣府
原子力政策担当室

第14回アジア原子力協力フォーラム（FNCA） コーディネーター会合開催について

平成25年3月11日（月）～3月12日（火）、三田共用会議所（東京都港区）にて、第14回FNCAコーディネーター会合を開催致します。

今次会合では、プロジェクトの活動報告、評価及び今後の計画について議論する予定です。

※アジア原子力協力フォーラム（FNCA）は、我が国が主導するアジア地域の原子力技術の平和的で安全な利用を進めるための協力フォーラムです。（ホームページ：<http://www.fnca.mext.go.jp/>）。コーディネーター会合は、自国におけるプロジェクトの実施に責任を持ち、協力活動全体を総括して参加国相互の連絡調整を行う役割を担う各国のコーディネーターにより、年一回プロジェクトの実施状況を評価・レビューするとともに、全体計画の討議を行うものです。

※FNCA10プロジェクト

放射線育種、バイオ肥料、電子加速器利用、放射線治療、研究炉ネットワーク、中性子放射化分析、原子力安全マネジメントシステム、放射線安全・廃棄物管理、人材養成、核セキュリティ・保障措置

- 主催 内閣府、原子力委員会
共催 文部科学省
- 開催日 平成25年3月11日（月）～3月12日（火）
- 開催場所 東京（三田共用会議所 国際会議場（3階））（地図別添）
- 参加予定国
オーストラリア、バングラデシュ、中国、インドネシア、日本、カザフスタン、韓国、マレーシア、モンゴル、フィリピン、タイ、ベトナム

※我が国からは、近藤駿介原子力委員会委員長並びに原子力委員会各委員、町末男FNCA日本コーディネーター、国内各プロジェクトリーダー、関係省庁等が出席予定

5. 報道関係者の傍聴及び取材

報道関係者の傍聴及び取材は、3月11日(月)の記念撮影・開会セッション(9:30~10:00)のみ可能です。なお、時間は前後する場合がございますので、あらかじめ御了承下さい。

傍聴や取材、カメラ撮り等を希望される報道関係者は、セキュリティの都合上、事前登録が必要です。開催前(3月6日(水)12時)までに、以下の問い合わせ先に氏名、所属及び連絡先、撮影機材持ち込みの有無を御登録ください。御登録いただけない場合、傍聴席等が確保できない場合があります。

なお、傍聴及び取材は1社につき原則1名(撮影のために入場する報道関係者は除く。)とし、会議室への入室の際には、登録された本人であることが確認できるものを提示していただくとともに、社名入り腕章を着用してください。

(問い合わせ先)

内閣府政策統括官(科学技術政策・イノベーション担当)付 原子力担当
氏原、反町、柳澤

電話: 03-3581-6690(直通)

FAX: 03-3581-9828

第14回アジア原子力協力フォーラム（FNCA） コーディネーター会合プログラム

日 付：平成25年3月11日（月）－12日（火）
場 所：三田共用会議所
主 催：内閣府、原子力委員会
共 催：文部科学省

平成25年3月11日（月）

プレスオープン部分（9：30～10：00）

記念撮影

セッション1：開会

- ・開会挨拶（近藤 駿介 原子力委員会委員長）
- ・参加者紹介
- ・アジェンダの確認

セッション2：第13回FNCA大臣級会合報告

セッション3：プロジェクト成果報告（研究炉利用開発）

セッション4：プロジェクト成果報告（原子力安全強化、原子力基盤強化）

セッション5：プロジェクト成果報告（放射線利用開発）

平成25年3月12日（火）

セッション6：原子力発電の基盤整備に関するスタディパネルの成果と計画

セッション7-1：放射線利用部門とエンドユーザーのネットワークの構築

セッション7-2：放射線利用の社会経済的効果の評価

セッション8：IAEAとの連携

セッション9：FNCAの今後の活動について

セッション10：閉会

※現時点の内容であり、各国等との調整によりプログラムを変更することがあります。

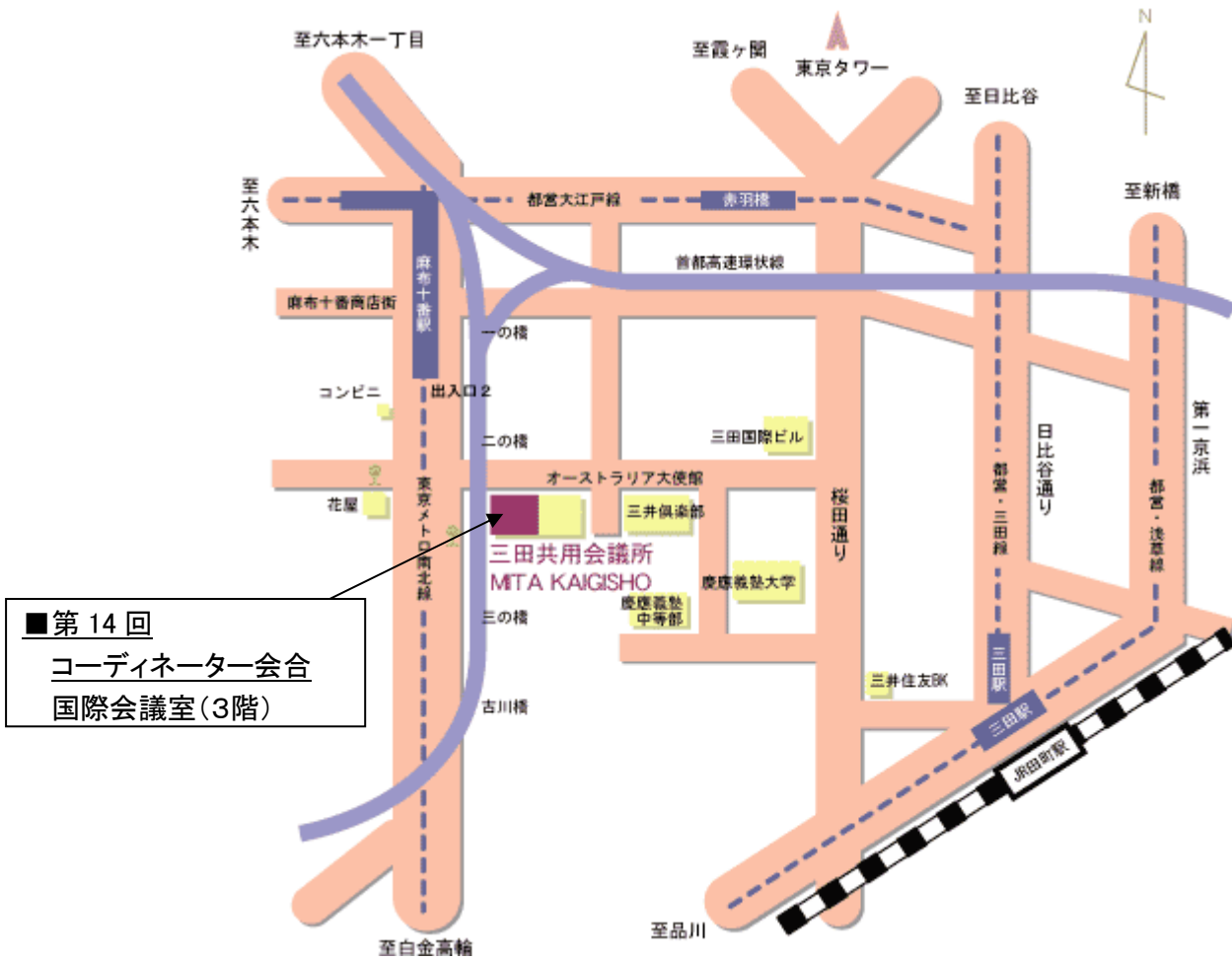
会場地図

場所: 三田共用会議所 国際会議室(3階)

【交通手段】:(地下鉄)

東京メトロ 南北線 麻布十番駅下車 2番出口より徒歩5分

都営地下鉄 大江戸線 麻布十番駅下車 2番出口より徒歩7分



第 14 回 FNCA コーディネーター会合参加者一覧

【海外出席者】

①オーストラリア

- 1) Mr. Peter McGLINN (ピーター・マックグリン)
オーストラリア原子力科学技術機構 (ANSTO)
国際関係シニアアドバイザー

②バングラデシュ

- 1) Mr. Abu Sayeed Mohammad FIROZ (アブ・サイード・モハンマド・フィロス)
バングラデシュ原子力委員会 (BAEC) 委員長
- 2) Dr. Md. Khairul Islam (カイルル・イスラム)
バングラデシュ原子力委員会 (BAEC) 国際部 主任科学官

③中国

- 1) Dr. HE Shijun (フー・シジュン)
清華大学 核能・新能源技術研究院 (INET) 准教授
- 2) Ms. YU Xiaoli (ユ・シャオリ)
中国国家原子能機構 (CAEA) プロジェクトマネージャー

④インドネシア

- 1) Dr. Ferhat AZIZ (フェルハト・アジズ)
インドネシア原子力庁 (BATAN) 副長官 (研究開発成果利用・原子力科学技術広報担当)
- 2) Dr. Sigit SANTOSO (シギット・サントソ)
インドネシア原子力庁 (BATAN) 原子炉技術・原子力安全センター
ヒューマンファクター・原子力安全グループ長

⑤カザフスタン

- 1) Dr. Erlan G. BATYRBKOV (エルラン・G・バティルベコフ)
カザフスタン国立原子力研究所 (NNC) 総裁
- 2) 調整中

⑥韓国

- 1) 調整中
- 2) 調整中

⑦マレーシア

- 1) Dr. Muhd. Noor MUHD YUNUS (モハメド・ノール・モハメド・ユナス)
マレーシア原子力庁 (Nuclear Malaysia) 副長官 (科学技術開発プログラム部門)
- 2) Dr. Khairuddin BIN ABDUL RAHIM (カイルディン・ビン・アブドゥル・ラヒム)
マレーシア原子力庁 (Nuclear Malaysia) 農業科学技術・生物科学部 部長

⑧モンゴル

- 1) Prof. Dr. Suren DAVAA (シュレン・ダヴァア)
モンゴル国立大学 原子力研究センター長
- 2) Mr. Tamir NYAMBAYAR (タミル・ニヤムバヤ)
モンゴル原子力庁 (NEA) 国際広報部

⑨フィリピン

- 1) Dr. Alumanda M. DELA ROSA (アルマンダ・M・デラ・ローサ)
フィリピン原子力研究所 (PNRI) 所長
- 2) Ms. Charito ARANILLA TRANQUILAN (チャリト・アラニラ・タランキュラン)
フィリピン原子力研究所 (PNRI) 原子力研究部・化学研究グループ
上級科学研究スペシャリスト

⑩タイ

- 1) Dr. Somporn CHONGKUM (ソンポーン・チョンクム)
タイ原子力技術研究所 (TINT) 所長
- 2) Dr. Yaowalak CHANSILPA (ヤワラ・チャンシルバ)
マヒドン大学医学部シリラジ病院 放射線科放射線治療部 准教授

⑪ベトナム

- 1) Dr. CAO Dinh Thanh (カオ・ディン・タン)
ベトナム原子力研究所 (VINATOM) 副所長
- 2) Ms. DOAN Thi Thu Huong (ドアン・チー・スー・フォン)
ベトナム原子力研究所 (VINATOM) 国際部

⑫IAEA/RCA<オブザーバー>

- 1) Mr. Jin Kyu LIM (ジン・ギョ・イム)
国際原子力機関 (IAEA) アジア原子力地域協力協定 (RCA)
RCA 地域オフィス 部長代理

【国内出席者】

①町 末男

FNCA 日本コーディネーター (元原子力委員会委員)

②中井 弘和 (放射線育種)

静岡大学名誉教授 元副学長

③横山 正 (バイオ利用)

東京農工大学大学院 農学研究院 生物生産科学部門 教授

④玉田 正男 (電子加速器利用)

独立行政法人日本原子力研究開発機構 高崎量子応用研究所 所長

⑤辻井 博彦 (放射線治療)

独立行政法人放射線医学総合研究所 フェロー

⑥河村 弘 (研究炉ネットワーク)

独立行政法人日本原子力研究開発機構 大洗研究開発センター 副所長

- ⑦海老原 充（中性子放射化分析）
首都大学東京大学院 理工学研究科 分子物質化学専攻 教授
- ⑧中村 武彦（原子力安全マネジメントシステム）
独立行政法人日本原子力研究開発機構
安全研究センター 研究計画調整室 室長
- ⑨服部 隆利（放射線安全・廃棄物管理）
一般財団法人電力中央研究所原子力技術研究所
放射線安全研究センター 副センター長
- ⑩山下 清信（人材養成）
独立行政法人日本原子力研究開発機構
原子力人材育成センター センター長
- ⑪千崎 雅生（核セキュリティ・保障措置）
独立行政法人日本原子力研究開発機構
核不拡散・核セキュリティ総合支援センター センター長

○その他に、近藤駿介原子力委員会委員長並びに原子力委員会各委員、関係省庁等が出席予定。

○上記は平成25年2月25日現在のものであり、今後変更されることがあります。

アジア原子力協力フォーラム (FNCA : Forum for Nuclear Cooperation in Asia) の概要

1. 概要及び目的

積極的な地域のパートナーシップを通して、原子力技術の平和的で安全な利用を進め、社会・経済的發展を促進することを目指す

2. 参加国

オーストラリア、バングラデシュ、中国、インドネシア、日本、カザフスタン、韓国、マレーシア、モンゴル、フィリピン、タイ、ベトナムの全12か国（この他にIAEAがオブザーバー参加）

3. 経緯

原子力委員会が主催し開催してきた、近隣アジア諸国の原子力関係者が一堂に会し、情報交換及び地域協力のあり方を議論する場であった「アジア地域原子力協力国際会議」を発展的に改組し、平成11年4月に「アジア原子力協力フォーラム」が発足した。

<原子力政策大綱における位置付け（アジア諸国との協力部分）>

我が国が主体的・能動的に協力を行う国・地域は、地政学的にも経済的にも緊密な関係を有するアジアを中心とする。（略） これらの協力に当たっては、相手国の自主性を重んじ、パートナーシップに基づくことを基本として、例えばアジア原子力協力フォーラム（FNCA）、IAEAのアジア原子力地域協力協定（RCA）といった多国間の枠組みや、二国間及び国際機関を通じた枠組みを目的に応じて効果的に利用することが適切である。

（参考）「アジア地域原子力協力国際会議」は平成2年、アジア地域での放射線利用や研究炉での利用の推進に貢献するために、日本主導で設立された。平成10年、これまでの協力活動全体を総括し、内外との連絡・調整を行う「コーディネーター」を各国から選任し、その下で専門的見地から活動する「プロジェクトリーダー」を協力分野ごとに選任し、より組織的な協力活動を進めることのできるFNCA新体制に移行した。

4. 枠組み

(1) 大臣級会合

各国の原子力を所管する大臣級代表が出席して、原子力技術の平和利用に関する地域協力のための政策対話を行う。なお、大臣級会合を補佐するための上級行政官会合を付設。日本と参加国で交互に毎年1回開催。

(開催実績)

- 第1回大臣級会合：平成12年11月（タイ）大島科学技術庁長官出席
テーマ：「原子力利用の推進」、「原子力安全」、「地域原子力協力の推進」
- 第2回大臣級会合：平成13年11月（東京）尾身科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「持続可能な発展と原子力」、「放射線利用分野における協力のあり方」
- 第3回大臣級会合：平成14年10月（韓国）細田科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「人材養成戦略」、「持続可能な発展と原子力」
- 第4回大臣級会合：平成15年12月（沖縄）茂木科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「放射線・ラジオアイソトープ利用の社会・経済的効果の増大」
「持続可能な発展と原子力エネルギー」
- 第5回大臣級会合：平成16年12月（ベトナム）棚橋科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「アジアにおける原子力人材育成に関する協力」、「FNCAの今後のあり方」
- 第6回大臣級会合：平成17年12月（東京）松田科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「アジアにおける原子力人材育成に関する協力」、「科学技術と原子力」
- 第7回大臣級会合：平成18年11月（マレーシア）平沢内閣府副大臣出席
テーマ：「アジアの持続的発展における原子力エネルギーの役割」
「原子力エネルギーの広報」
- 第8回大臣級会合：平成19年12月（東京）岸田科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「原子力エネルギーの平和利用への取組みとFNCA活動」
「放射線利用を中心としたFNCA活動」
- 第9回大臣級会合：平成20年11月（フィリピン）増原内閣府副大臣出席
テーマ：「原子力発電の基盤整備のための協力」
「放射線利用のさらなる促進のための協力」
- 第10回大臣級会合：平成21年12月（東京）菅科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「原子力エネルギー利用促進のためのさらなる協力」
「放射線・アイソトープ応用促進のためのさらなる協力」
- 第11回大臣級会合：平成22年11月（中国）和田内閣府大臣政務官出席
テーマ：「原子力エネルギー利用促進のためのさらなる協力」
「放射線・アイソトープ応用促進のためのさらなる協力」
- 第12回大臣級会合：平成23年12月（東京）
細野内閣府特命担当大臣、中塚内閣府副大臣出席
テーマ：「基盤整備（人材養成と広報）」
「放射線・アイソトープ応用促進のための協力」
- 第13回大臣級会合：平成24年11月（インドネシア）
白眞勲内閣府副大臣出席
テーマ：「FNCAの役割」

(2) コーディネーターとコーディネーター会合

自国におけるFNCAプロジェクトの実施に責任を持つとともに、協力活動全体を総括して参加国相互の連絡調整を行う役割を持つコーディネーターが各国から1名選任されている。プロジェクトの実施状況を評価・レビューするとともに、全体計画を討議するため、コーディネーター会合を年1回日本で開催。日本のコーディネーターは町末男元原子力委員会委員。

(開催実績)

○第 1回	コーディネーター会合	平成12年3月	東京
○第 2回	コーディネーター会合	平成13年3月	東京
○第 3回	コーディネーター会合	平成14年3月	東京
○第 4回	コーディネーター会合	平成15年3月	沖縄
○第 5回	コーディネーター会合	平成16年3月	東京
○第 6回	コーディネーター会合	平成17年3月	東京
○第 7回	コーディネーター会合	平成18年3月	東京
○第 8回	コーディネーター会合	平成19年2月	東京
○第 9回	コーディネーター会合	平成20年3月	東京
○第10回	コーディネーター会合	平成21年3月	東京
○第11回	コーディネーター会合	平成22年3月	東京
○第12回	コーディネーター会合	平成23年3月	福井 (中止)
○第13回	コーディネーター会合	平成24年3月	福井
○第14回	コーディネーター会合	平成25年3月	東京 (今回)

(3) 「検討パネル」

平成16年から平成18年の3か年間「アジアの持続的発展における原子力エネルギーの役割」検討パネル(第1フェーズ)を開催し、アジア地域における長期的な環境問題への対応やエネルギー資源の確保の面から原子力エネルギーの役割を評価した。

その結果を受け、第2フェーズとして平成19年から平成20年の2か年間「アジアの原子力発電分野における協力に関する検討パネル」を開催し、1)原子力発電分野における人材養成、2)原子力発電にかかわる安全確保のための基盤整備について議論を行なった。平成20年11月にマニラで開催された第9回FNCA大臣級会合では、第3フェーズとして平成21年から「原子力発電のための基盤整備に向けた取組に関する検討パネル」を開催することが決定された。

(開催実績)

■第1フェーズ

「アジアの持続的発展における原子力エネルギーの役割検討パネル」

○第1回	パネル会合	平成16年10月	東京
○第2回	パネル会合	平成18年 1月	東京
○第3回	パネル会合	平成18年11月	敦賀

■第2フェーズ

「アジアの原子力発電分野における協力に関する検討パネル」

- 第1回 パネル会合 平成19年10月 東京
- 第2回 パネル会合 平成20年 9月 東京

■第3フェーズ

「原子力発電のための基盤整備に向けた取組に関する検討パネル」

- 第1回 パネル会合 平成21年7月30日、31日 東京
議長 長：伊藤 隆彦 原子力委員会委員
- 第2回 パネル会合 平成22年7月1日、2日 韓国
共同議長：尾本 彰 原子力委員会委員
Mr. SHIN Jae Sik (シン・ゼシク) 韓国教育科学技術部 (MEST)
原子力局 原子力協力課長
- 第3回 パネル会合 平成23年7月5日、6日 インドネシア
共同議長：尾本 彰 原子力委員会委員
Dr. Taswanda TARYO (タスワンダ・タリヨ)
インドネシア原子力庁 (BATAN) 次官 (研究開発研究成果利用・
原子力科学技術広報担当)
- 第4回 パネル会合 平成24年7月26日、27日 タイ
共同議長：尾本 彰 原子力委員会委員
Dr. Kurujit NAKORNTHAP (クルジット・ナコーンタップ)
タイ エネルギー省事務次官補

(4) 個別プロジェクトについての協力活動

FNCAは、放射線利用開発、研究炉利用開発、原子力安全強化、原子力基盤強化の分野で10のプロジェクトを展開している。プロジェクト毎に各国1名のプロジェクトリーダーが任命されている。各参加国のプロジェクトリーダーは、自国におけるプロジェクト活動を実施していく責任を有する。プロジェクト毎に、通常年1回のワークショップ等を開催し、それぞれの国の進捗状況と成果を発表・討議して、次期実施計画を策定する。

アジア原子力協力フォーラム(FNCA)の構成

